環境マネジメント

Environmental Management

環境指針

三菱ふそうは社のビジョンとして「信頼度No.1企業」を目指しており、それを実現するため、企業倫理や品質とともに、社会的責任を重視することを経営方針にしています。
それと連動し、環境については「環境指針」に基本的な方針をまとめています。その中で、環境保全を最重要課題の一つと認識し、関連会社、取引先の協力を得て継続的に環境保全に取り組むことを宣言しています。
この「環境指針」を全ての製品、サービス等の企業活動に反映するため「環境サステナビリティプラン」(P.6－7参照)を設定し、具体的な環境保全活動を推進しています。

ビジョン
ー信頼度 No.1 企業へー

▼

環境指針
ー環境保全への取り組み方針ー

▼

環境サステナビリティプラン
ー具体的行動計画ー

三菱ふそう環境指針

基本指針

地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し

（1）グローバルな視野に立ち、車に関する開発、購買、生産、販売、サービスなど全ての企業活動の中で総力を結集し、環境への負荷低減に継続的に取り組みます。

（2）社会を構成する良き企業市民として、積極的に地域や社会の環境保全活動に取り組みます。

行動基準

（1）製品のライフサイクル全ての段階において、環境への影響を予測評価し、環境保全に努める。

＜重点取り組み＞

●温室効果ガスの排出量を削減して地球温暖化防止に努める。

●環境汚染物質の排出を抑制し、汚染の防止に努める。

●省資源、リサイクルを推進し、資源の有効活用と廃棄物の低減に努める。

（2）環境マネジメントの充実に努め、継続的に環境改善に取り組む。

（3）環境規制、協定を遵守し、自主管理目標を設定して環境保全に取り組む。

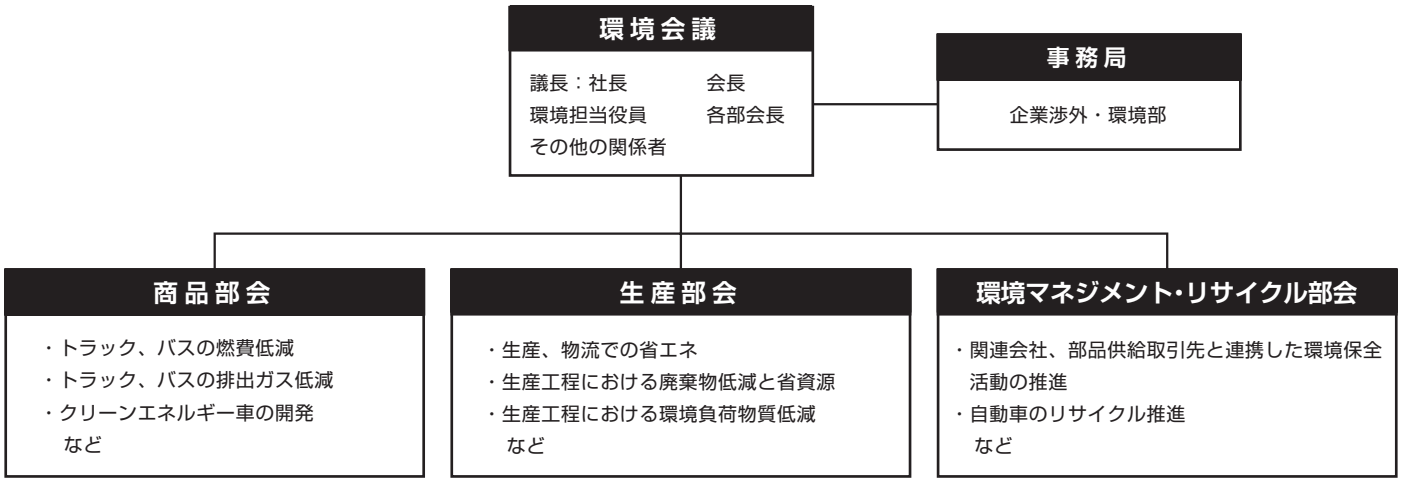
（4）国内外の関連会社や取引先などと協力し、環境保全に取り組む。

（5）環境情報を積極的に公開し、地域や社会との相互理解に努める。

組織体制

環境会議

三菱ふそうは社長を議長とする「環境会議」を設置し、全社的な環境保全活動を推進しています。環境会議は傘下に「商品部会」「生産部会」「環境マネジメント・リサイクル部会」を置いて、社の環境保全への取り組みの基本方針を策定すると共に、傘下の各部会が提案した事項について、審議、決定しています。
2003年の社発足以来、この体制で環境への取り組みを推進してきましたが、より良い活動を行うべく、体制見直しの検討を開始したところです。



環境サステナビリティプラン

2003年1月、三菱ふそうは社の発足と同時に中期計画「環境サステナビリティプラン」を改定しました。このプランでは環境マネジメント、リサイクル、地球温暖化防止、環境汚染防止の4つの観点から具体的な目標を掲げています。現在22項目目標が設定されており、各部会が毎年度ごとに具体的な「アクションプラン」を策定し、取り組みを推進しています。
また「環境サステナビリティプラン」の進捗状況をフォローアップするのも環境会議の重要な役割のひとつです。三菱ふそうは、活動評価の結果を毎年この報告書で社会に公表しています。
2008年の活動評価は次のとおりです。活動の詳細については、各項目の参照ページをご覧ください。

※　各項目の中期目標については、http://www.mitsubishi-fuso.com/ECO/plan/index.html をご覧ください。

（1）環境マネジメント

○：達成　×：未達成

国内・海外生産関連会社との連携

	2008年(度)目標	2008年(度)実績	評価	参照頁
ISO14001認証の取得促進	・完了	—	—	—
国内生産関連会社との連携	・「グループ工場環境連絡会」の開催と「工場環境情報」の発行（1回/年）	工場環境連絡会は未開催	×	8

販売会社との連携

環境マネジメントシステムの構築支援	・環境マネジメントシステムの運営支援	継続実施中	—	21

情報公開

環境に関する情報公開	・環境社会報告書2008の発行 ・環境情報の随時公開	・2008年10月発行 ・ホームページで環境情報を随時公開	○	9

取引先との連携　グリーン調達

ISO14001認証の取得推進	・主要取引先におけるISO14001の認証取得拡大	引き続き推進中	○	14

	2008年(度)目標	2008年(度)実績	評価	参照頁

(2) リサイクル

○：達成　×：未達成

自動車リサイクルの推進

国内/欧州の自動車リサイクル法への対応	・国内自動車リサイクル法の定着に向けた確実な対応と取り組み	再資源化等の実績を公表。また、ASRリサイクル率の法定基準(30%)を達成（72.4%）	○	22

生産工程における廃棄物低減と省資源

埋立処分量のゼロ化	・廃棄物発生量に対する埋立処分率0.1%以下の維持管理	廃棄物発生量に対する埋立処分率0.006%	○	15
リサイクルの推進	・リサイクル率98%以上の継続	リサイクル率99.7%	○	15
生産工程での副産物の発生抑制	・売上高あたりの発生量（金属屑）を2002年度以下に低減	売上高あたりの発生量：2002年度比31%低減（0.0402 t／百万円）	○	16
水資源の有効利用	・生産台数あたりの水使用量原単位を2005年度比12%削減	生産台数あたりの水使用量：2005年度比1%低減（4.92m^3／台）	×	16

(3) 地球温暖化防止

自動車の燃費低減

トラック・バスの燃費低減	・重量車燃費基準適合車の展開拡大	重量車燃費基準に適合した小型トラックの市場投入	○	11

エアコン冷媒への対応

フロン系冷媒HFC134a使用量の削減	・冷媒使用量を削減したエアコンシステムの順次採用	高効率な新コンポーネント採用に向けた製品開発を継続実施	○	11
HFC134aを使わないエアコンの開発促進	・新冷媒エアコンの評価を推進	関連メーカ各社との合同評価を継続実施	○	11

交通流円滑化

車両データ通信による運行管理システムの開発	・運行管理システムの支援	ふそうエコフリートPRO(デジタルタコグラフ)の支援	○	11

生産・物流での対応

工場のCO_2の排出抑制	・CO_2総排出量：1990年度比20%以上削減	CO_2総排出量：1990年度比50%減	○	15
物流におけるCO_2の排出抑制	・完成車出荷に係る輸送量［t·km（トンキロメートル）※1］当たりのCO_2を前年比1%削減	完成車出荷に係る輸送量当たりのCO_2：63.9g/t·km（前年比△1.38%）	○	19
梱包、包装資材の低減	・木材梱包ケースの売上高当たり使用量：2000年度比24%以上低減	木材梱包ケースの売上高当たり使用量：2000年度比41.7%低減	○	20

(4) 環境汚染防止

低公害車の開発・普及

クリーンエネルギー車の市場導入	・ハイブリッド電気自動車の開発促進	更なる燃費向上を図った2009年型キャンター エコ ハイブリッドを開発	○	11-12
国内・海外の排出ガス規制への対応	・各規制適合車のタイムリーな市場導入	規制適合車発売：豪州向小型トラック EPA04規制適合車発売：豪州向中型トラック	○	11-12

騒音低減

国内・海外の騒音規制への対応	・各規制適合車のタイムリーな市場導入	規制適合車発売	○	—

生産工程における環境負荷物質の低減

VOC排出抑制	・キャブ塗装工程でのVOC排出削減目標：20 g/m^{2}以下 ・VOC削減方法の検討・実施	VOC排出量：18 g/m^2	○	17
電着塗装の鉛フリー化	・トラックキャブ電着塗装ラインの鉛フリー化	完了	—	—

※1　t·km（トンキロメートル）：輸送重量(t) に輸送距離(km)を掛けた数量。

ISO14001 の取り組み

ISO14001 認証取得

三菱ふそうでは、環境取り組みの透明性、信頼性を確保するために、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を下表に示すようにまず生産本部（製作所）において取得しました。
2002年12月には、生産本部の認証更新にあわせて、「開発・設計業務に関する環境マネジメントシステム」についても認証を取得しました。
また、国内・海外の主要関連会社についても2003年度までに取得を完了しています。

ISO14001認証取得状況

三菱ふそう	生産本部	1999年12月
	開発部門に拡大	2002年12月
国内関連会社	（株）パブコ	2000年 6月
	三菱ふそうバス製造（株）	2003年12月
海外関連会社	ふそうテクニカルサービス(株)	2006年 6月
	ＭＦＴＥ（ポルトガル）	2002年 2月

関連会社との連携

三菱ふそうでは、生産関係の主要関連会社との間で1年に１回「工場環境連絡会」を開催して、三菱ふそうと同レベルの環境取り組みの推進を図ると共に、相互の情報交換を行っています。2008年度は開催出来ませんでしたが、今年度は開催する予定です。
2002年度以来各社とも「中期環境行動計画」を策定し、半年毎に進捗確認を実施しています。
また、関連取引先約40 社を対象に年１回「工場環境情報」を発行し、法規制の動向、環境問題に関する情報提供を行っています。

工場環境情報

環境監査

環境マネジメントシステムが有効に機能していることを確認し更なる改善を図るため、部門毎に年１回の内部監査と、第三者機関による年１回の外部監査を実施しています。
内部監査では、資格認定制度により社内外の教育を受けて認定された内部監査員（社員）が環境関連項目を確認します。そこで指摘を受けた事項については、最高責任者のチェック＆レビューを受け、的確な是正措置が実施されます。また、すぐれた取り組みについては、全部門へ広く展開される仕組みとなっています。
2008年度の外部監査では、不適合2件と観察事項3件の指摘を受けました。全体としては環境マネジメントが適正に運用・維持されているとの評価をいただいています。指摘事項については直ちにシステムの是正を行うと共に、引き続きよりレベルの高いシステムの運用を目指し努力していきます。
また、2008年11月にはダイムラートラックグループの一員としてダイムラー社による２回目の環境監査を受けました。同監査で指摘を受けた約30件の課題について、現在対策を実施中であり、今後はさらにレベルアップした工場環境の実現を目指しています。

緊急時対応、環境に関する事故など

緊急時対応

工場の生産活動においては、安全操業と環境負荷低減のために、適正な運転基準・作業標準を定めて、安定した操業の維持管理に努めています。地震などの天災や日常の作業の中で予想される緊急事態を想定し、最善の方法で対処出来るように、「緊急時の対応方法」を定めて定期的に対応訓練を実施しています。

事故

2008年度は、環境に関連した事故はありませんでした。

苦情

2008年には地域の方々から、川崎工場内の騒音、臭気に関するご指摘を5件、また、社員のマナーなどに関するご指摘を数件受けました。これらに対して、原因究明や社員への指導に努めると共に、工場周辺のパトロールなどによるモニタリングを実施しています。

訴訟

環境に関する訴訟はありませんでした。

環境に関するリコール等

小型トラック「キャンター」および中型トラック「ファイター」等の4M50型エンジン搭載車において、再生制御式DPFに関するリコールを届け出ました（届出番号 2113、2008年5月）。渋滞時にDPFの再生時間が異常に長くなり、その結果エンジンオイルに燃料が混じるという不具合が発生する可能性があります。詳細については、三菱ふそうホームページの「リコール情報」欄をご参照下さい。
（http://www.mitsubishi-fuso.com/jp/news/recall.html）

環境会計

三菱ふそうの環境会計は環境省の環境会計ガイドライン2005年版を参考としています。当社は決算期間に合わせ、環境会計についても1 ～ 12月を会計期間としています。

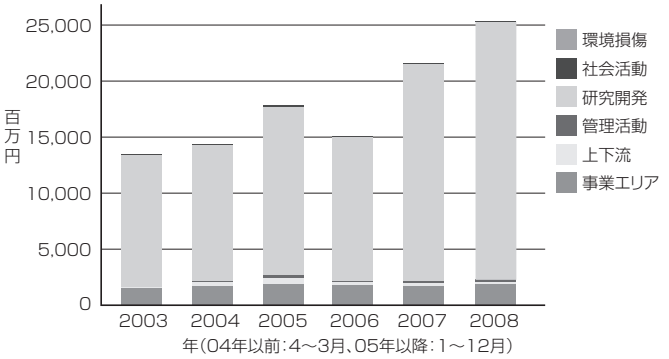
（1）環境保全コスト※1

2008年の環境コストの総額は約250億円で、売り上げ高の約3.4%でした。また、前年に比べ約38億円増加しました。増加要因のほとんどが、環境に関する研究開発費用の増加によるものです。

環境保全コスト（単位：百万円）

分類		07年	08年	08年 対07年増減
（1）事業エリア内コスト		1,782	1,862	+80
内訳	①公害防止コスト	529	560	+31
	②地球環境保全コスト	922	993	+71
	③資源循環コスト	331	310	−21
（2）上・下流コスト		217	159	−58
（3）管理活動コスト		155	189	+34
（4）研究開発コスト		19,421	23,144	+3,723
（5）社会活動コスト		56	67	+11
（6）環境損傷対応コスト		1	1	±0
合計		21,632	25,421	+3,789

環境保全コスト



（2）環境保全効果※2

環境保全効果については、全ての主要な項目の環境負荷を削減することが出来ました。

環境保全効果

項目　(単位)	07年	08年	環境保全効果
(1)事業活動に投入する資源に関する環境保全効果			
総エネルギー投入量 (10^{12}J)	2,359	2,243	116
PRTR対象物質投入量 (t)	1,088	813	275
水資源投入量 (千m^3)	991.5	836.5	155
(2)事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果			
生産でのCO_2排出量 (千t)	107	95	12
完成車輸送時のCO_2排出量 (t)	4,357	3,421	936
PRTR対象物質排出量・移動量※3 (t)	303	232	71
廃棄物発生量 (t)	35,561	26,951	8,610
廃棄物最終処分量 (t)	2.3	1.7	0.6

（3）環境保全対策に伴う経済効果※4

例年同様「廃棄物のリサイクルに伴う収益」などが得られました。ただし、「エネルギー費用」については、エネルギー使用量が減ったにもかかわらず、電力および都市ガスの料金が上がったため、増加しました。

環境保全対策に伴う経済効果(単位：百万円)

分類	項目	経済効果
収益	廃棄物のリサイクルに伴う収益	1,037
費用節減※5	エネルギー費用の削減	−272
	廃棄物処理費用の削減	14
	用水購入費用の削減	115
合計		894

環境コミュニケーション

三菱ふそうは、インターネットホームページ、冊子、各種行事を通じて、環境取り組みに関する情報を皆様に提供しています。
当社のホームページでは、過去の環境報告書、車種別環境情報、低公害車開発への取り組みなど、環境に関する様々な情報を逐次掲載しています。お客様への情報提供として、車両の環境情報をカタログにも掲載しています。
「環境への取り組み」サイト　(http://www.mitsubishi-fuso.com/ECO/index.html)

外部行事への協力

各地で開催される低公害車フェアなどに参加しています。2008年度は、5月に開催された「エコカーワールド in 神戸」をはじめ多くの展示会やフェアに出展しました。

エコカーワールド2008 in 神戸

環境デーなごや 2008

また2008年秋には、電動車両普及センターが次世代自動車の普及活動の一環として行った大学キャンパス内での「クリーンエネルギー自動車試乗・展示会」にもキャンター エコ ハイブリッドを出展しました。

※1　環境保全コスト:
(1)各製作所における省エネ、省資源、廃棄物処理などの環境対策に係るコスト　(2)使用済み部品の回収などのコスト　(3)ISO14001、社員への環境教育などのコスト　(4)燃費低減、排出ガス低減などの研究開発に係るコスト　(5)環境関連の外部団体への寄付金などのコスト　(6)国等への賦課金などのコスト
※2　環境保全効果:環境負荷の発生の防止、制御または回避などの効果を物理量で表したもの。
※3　「移動量」からは廃棄物を除く。
※4　環境保全対策に伴う経済効果:環境保全対策を進めた結果、企業等の利益に貢献した効果を貨幣単位で表したもの。
※5　対象年実績と前年実績の差を「効果」として算出した。